

環境試料(大気浮遊じん及び大気降下物)中の 核種分析調査結果

調査の概要

1. 評価の対象とする調査

環境放射線等モニタリング調査(離島調査)

環境放射能水準調査(水準調査)

2. 調査試料及び調査地点

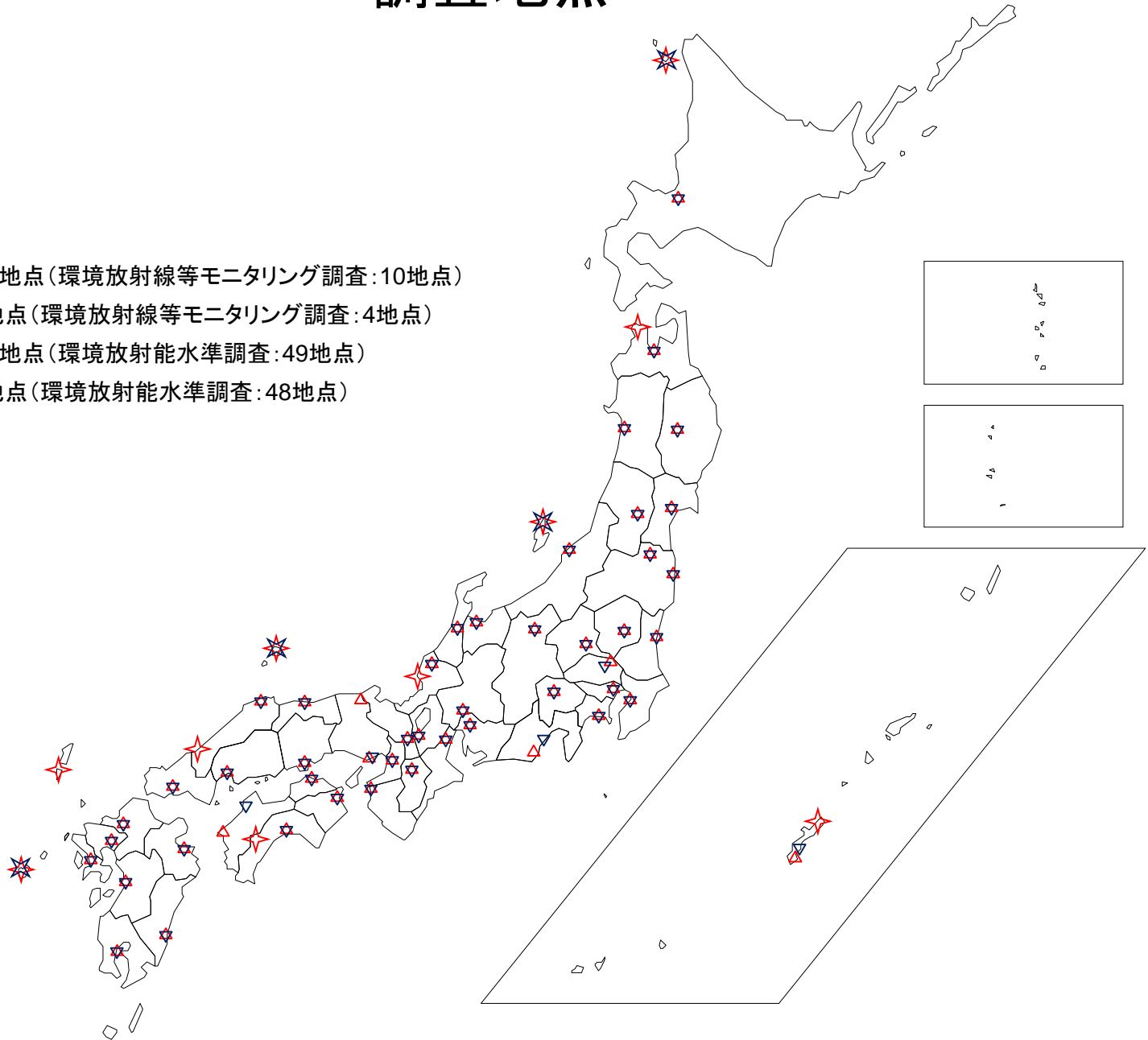
調査試料	調査地点	
	離島調査	水準調査
大気浮遊じん	8道県 10地点	47都道府県 49地点
大気降下物	4道県 4地点	47都道府県 48地点

3. 調査方法

Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリー

調査地点

- ✧ 大気浮遊じん 採取地点 (環境放射線等モニタリング調査: 10地点)
- ✕ 大気降下物 採取地点 (環境放射線等モニタリング調査: 4地点)
- △ 大気浮遊じん 採取地点 (環境放射能水準調査: 49地点)
- ▽ 大気降下物 採取地点 (環境放射能水準調査: 48地点)



大気浮遊じんの調査結果

エアサンプラ(大気採取機器)を使用し、大気中に浮遊している「ちりやほこり」をろ紙上に集め、分析を行うことにより、大気中における放射性物質の状況を把握することができる。

大気浮遊じん(離島調査)の評価方法

案

今回の評価対象とする調査結果	平成30年4月 - 平成31年3月採取分 8道県 10地点 連続捕集、3か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	平成27年4月 - 平成30年3月採取分 8道県 10地点 連続捕集、3か月ごとに分析
比較対象② [東日本大震災前3か年]	平成20年1月 - 平成22年12月採取分 8道県 10地点 連続捕集、3か月ごとに分析

10地点は利尻、竜飛岬、佐渡関岬、越前岬、隠岐、蟠竜湖、檜原、対馬、五島、辺戸岬

離島調査における大気浮遊じんの調査結果一覧

案

γ線スペクトロメトリー

単位: mBq/m³

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月		
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
利尻	ND	ND	1.9 - 2.8	ND	ND	1.7 - 3.0	ND	ND	ND - 3.1
竜飛岬	ND	ND	1.9 - 3.6	ND	ND	2.0 - 3.4	ND	ND	1.6 - 3.9
佐渡関岬	ND	ND	2.4 - 4.1	ND	ND	2.1 - 4.3	ND	ND	ND - 4.3
越前岬	ND	ND	1.8 - 4.4	ND	ND	2.0 - 4.1	ND	ND	2.2 - 5.7
隠岐	ND	ND	2.1 - 4.7	ND	ND	2.3 - 4.4	ND	ND	ND - 4.5
蟠竜湖	ND	ND	2.0 - 4.4	ND	ND	1.7 - 4.4	ND	ND	ND - 4.7
橋原	ND	ND	1.3 - 4.0	ND	ND	1.8 - 4.3	ND	ND	ND - 4.8
対馬	ND	ND - 0.0058	1.7 - 3.9	ND	ND	1.8 - 4.7	ND	ND	ND - 4.6
五島	ND	ND	1.6 - 4.4	ND	ND	1.6 - 4.5	ND	ND	ND - 4.9
辺戸岬	ND	ND	1.3 - 3.5	ND	ND	1.1 - 4.9	ND	ND - 0.0095	ND - 4.9

Ge半導体検出器によるγ線スペクトロメトリーで検出可能な核種のうち、代表的な人工放射性核種である¹³⁴Cs及び¹³⁷Csを記載した。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の¹³⁷Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる¹³⁷Csをブランク値として差引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

詳細な調査結果は参考資料に掲載した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

大気浮遊じん(水準調査)の評価方法

案

今回の評価対象とする 調査結果	平成30年4月 - 平成31年3月採取分 47都道府県 49地点 3か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	平成27年4月 - 平成30年3月採取分 47都道府県 49地点 3か月ごとに分析
比較対象② [東日本大震災前3か年]	平成20年1月 - 平成22年12月採取分 38府県 38地点 3か月ごとに分析

水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(1)

案

単位: mBq/m³

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	
北海道札幌市	ND	ND	1.6 - 2.7	ND	ND	0.50 - 3.7	-	-	-	H24/4/25
青森県青森市	ND	ND	2.4 - 4.9	ND	ND	1.7 - 4.1	-	-	-	H24/4/20
岩手県盛岡市	ND	ND	2.3 - 5.7	ND	ND	2.0 - 6.7	-	-	1.8 - 6.1	S63/4/6
宮城県仙台市	ND	0.0044 - 0.0064	-	ND	ND - 0.010	-	-	-	-	H24/4/20
秋田県秋田市	ND	ND	3.6 - 6.5	ND	ND	3.0 - 5.2	-	ND	1.7 - 3.5	H4/4/27
山形県山形市	ND	ND	2.2 - 3.4	ND	ND	1.7 - 4.2	-	ND	1.4 - 4.6	H1/4/14
福島県大熊町	0.018 - 0.059	0.19 - 0.69	2.1 - 5.0	0.025 - 0.33	0.20 - 1.3	0.83 - 3.6	-	ND	3.1 - 79	S63/5/30
福島県福島市	ND	0.022 - 0.056	2.3 - 5.4	ND - 0.020	0.018 - 0.12	1.5 - 3.4	-	-	-	H26/4/8
茨城県ひたちなか市	ND	0.0064 - 0.0091	3.5 - 7.5	ND - 0.012	ND - 0.053	2.5 - 6.1	ND	ND	3.9 - 5.5	S63/4/1
栃木県宇都宮市	ND	ND	-	ND	ND	-	ND	ND	-	S63/1/21
群馬県前橋市	ND	ND	2.0 - 3.9	ND	ND - 0.011	1.3 - 3.7	-	ND	1.1 - 4.2	H2/10/31
埼玉県加須市	ND	ND	1.4 - 3.1	ND	ND - 0.017	1.3 - 3.2	-	ND	1.4 - 9.3	H20/4/3

原子力規制庁の環境放射線データベース内の調査結果を基に作成した。

測定値は、計数値が計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

詳細な調査結果は参考資料に掲載した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(2)

案

単位: mBq/m³

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	
千葉県市原市	ND	ND	2.4 - 4.9	ND	ND - 0.0085	1.5 - 3.5	ND	ND	2.9 - 6.9	H3/4/4
東京都新宿区	ND	ND - 0.010	2.5 - 2.9	ND	ND - 0.011	1.3 - 3.2	-	-	-	H24/4/5
神奈川県茅ヶ崎市	ND	ND	1.6 - 3.9	ND	ND	1.3 - 3.6	ND	ND	1.2 - 4.0	H1/3/28
新潟県新潟市	ND	ND	2.3 - 4.6	ND	ND	2.0 - 4.8	-	ND	2.8 - 5.0	S63/4/18
富山県射水市	ND	ND	-	ND	ND	-	-	ND	-	S63/4/20
石川県金沢市	ND	ND	2.3 - 3.3	ND	ND	1.2 - 4.0	-	-	-	H24/4/20
福井県福井市	ND	ND	2.0 - 3.7	ND	ND	1.6 - 4.8	-	ND	1.7 - 5.6	S63/4/12
山梨県甲府市	ND	ND	2.1 - 4.8	ND	ND	1.5 - 5.3	-	ND	2.3 - 6.3	S63/4/21
長野県長野市	ND	ND	2.8 - 5.0	ND	ND	1.4 - 4.1	-	ND	1.3 - 6.5	S63/10/17
岐阜県各務原市	ND	ND	1.2 - 5.1	ND	ND	1.5 - 3.3	ND	ND	1.2 - 4.4	H2/11/21
静岡県牧之原市※	ND	ND	3.8 - 5.9	ND - 0.011	ND - 0.067	2.1 - 5.6	-	ND	2.2 - 7.0	S63/4/20
愛知県名古屋市	ND	ND	1.9 - 4.8	ND	ND	1.3 - 4.8	-	ND	1.3 - 4.3	S63/1/20

※静岡県の採取地点は、平成28年10月より御前崎市から牧之原市に変更された。

水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(3)

案

単位: mBq/m³

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	
三重県四日市市	ND	ND	-	ND	ND	-	-	ND	-	S63/10/3
滋賀県大津市	ND	ND	4.4 - 8.1	ND	ND	3.0 - 7.7	-	ND	1.1 - 5.7	H1/10/21
京都府京都市	ND	ND	3.1 - 4.9	ND	ND	1.8 - 4.9	-	ND	2.3 - 5.4	S63/4/11
大阪府大阪市	ND	ND	1.6 - 3.7	ND	ND	1.0 - 3.6	-	-	1.7 - 9.7	S63/10/3
兵庫県神戸市	ND	ND	2.6 - 4.5	ND	ND	3.0 - 6.5	-	ND	1.7 - 5.1	S62/11/16
兵庫県豊岡市	ND	ND	2.2 - 4.2	ND	ND	2.1 - 4.3	-	ND	1.9 - 4.2	S62/11/27
奈良県桜井市	ND	ND	-	ND	ND	-	-	ND	1.4 - 4.1	H2/3/5
和歌山県和歌山市	ND	ND	-	ND	ND	-	ND	ND	-	S63/4/1
鳥取県湯梨浜町	ND	ND	-	ND	ND	-	ND	ND	1.4 - 4.1	H2/10/2
島根県松江市	ND	ND	3.7 - 7.2	ND	ND - 0.00063	3.8 - 6.6	-	-	-	H24/3/30
岡山県岡山市	ND	ND	-	ND	ND	-	-	ND	1.2 - 4.3	H4/1/20
広島県広島市	-	-	2.1 - 4.3	-	-	1.2 - 4.1	-	-	2.0 - 4.3	H1/4/5
山口県山口市	ND	ND	2.5 - 5.9	ND	ND	2.3 - 7.3	-	ND	0.18 - 6.9	S63/11/21

水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(4)

案

単位: mBq/m³

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	
徳島県徳島市	ND	ND	-	ND	ND	-	-	ND	-	H24/4/16
香川県高松市	ND	ND	1.5 - 4.8	ND	ND	2.1 - 8.9	-	ND	1.8 - 9.8	S63/7/27
愛媛県八幡浜市	ND	ND	1.7 - 4.5	ND	ND	1.3 - 4.5	-	-	-	H24/4/4
高知県高知市	ND	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	H24/4/18
福岡県太宰府市	ND	ND	3.5 - 5.3	ND	ND	1.0 - 5.9	-	-	-	H24/4/24
佐賀県佐賀市	ND	ND	1.3 - 5.4	ND	ND	1.0 - 5.3	-	ND	1.9 - 6.2	S63/6/22
長崎県大村市	ND	ND	1.4 - 10	ND	ND	2.2 - 9.6	-	ND	1.2 - 19	H2/10/3
熊本県宇土市	ND	ND	2.3 - 7.0	ND	ND	1.0 - 5.3	-	ND	2.5 - 5.7	H1/10/11
大分県大分市	ND	ND	2.2 - 7.2	ND	ND	1.6 - 7.7	-	ND	1.4 - 6.0	S63/4/1
宮崎県宮崎市	ND	ND	3.3 - 5.6	ND	ND	0.92 - 4.8	-	ND	ND - 5.9	S63/7/4
鹿児島県鹿児島市 薩摩川内市 ※1	ND	ND	2.5 - 5.2	ND	ND	1.9 - 5.5	-	-	-	H24/4/20
沖縄県うるま市 ※2	ND	ND	1.7 - 5.7	ND	ND	1.7 - 8.3	-	ND	0.98 - 9.2	H17/6/21

※1 鹿児島県の採取地点は、平成30年10月より鹿児島市から薩摩川内市に変更された。

※2 沖縄県の採取地点は、平成29年4月より南城市からうるま市に変更された。

大気浮遊じんの調査結果の評価

γ線スペクトロメトリーによって大気浮遊じんを分析した結果、一部の調査地点では、人工放射性核種である ^{134}Cs 及び ^{137}Cs がわずかに検出されたものの、ほぼ全ての地点において検出下限値を下回った。また、今回の調査結果は、概ね過去の調査結果(①過去3か年度及び②東日本大震災前のデータ)と比べて特段の変化は見られなかったことから、新たな事象による人工放射性核種の影響は認められなかったものと考えられる。

大気降下物の調査結果

水を充填した大型水盤を用いて、一定期間に地上に降ってきた雨やちり等の分析を行うことにより、大気中における放射性物質の状況を把握することができる。

大気降下物(離島調査)の評価方法

案

今回の評価対象とする調査結果	平成30年4月 - 平成31年3月採取分 4道県 4地点 連続捕集、3か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	平成27年4月 - 平成30年3月採取分 4道県 4地点 連続捕集、3か月ごとに分析
比較対象② [東日本大震災前3か年]	平成20年1月 - 平成22年12月採取分 4道県 4地点 連続捕集、3か月ごとに分析

4地点は利尻、佐渡関岬、隠岐、五島

離島調査における大気降下物の調査結果一覧

案

γ線スペクトロメトリー

単位: MBq/km²

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月		
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
利尻	ND	ND - 0.11	160 - 410	ND	ND - 0.10	240 - 420	ND	ND - 0.20	220 - 460
佐渡関岬	ND	ND - 0.11	290 - 500	ND	ND - 0.11	120 - 730	ND	ND - 0.15	210 - 910
隠岐	ND	ND - 0.17	140 - 550	ND	ND - 0.16	130 - 720	ND	ND - 0.12	140 - 570
五島	ND	ND - 0.095	220 - 420	ND	ND - 0.056	160 - 470	ND	ND - 0.12	150 - 490

Ge半導体検出器によるγ線スペクトロメトリーで検出可能な核種のうち、代表的な人工放射性核種である¹³⁴Cs及び¹³⁷Csを記載した。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

詳細な調査結果は参考資料に掲載した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

大気降下物(水準調査)の評価方法

案

今回の評価対象とする 調査結果	平成30年4月 - 平成31年3月採取分 47都道府県 48地点 連続捕集、1か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	平成27年4月 - 平成30年3月採取分 47都道府県 48地点 連続捕集、1か月ごとに分析
比較対象② [東日本大震災前3か年]	平成20年1月 - 平成22年12月採取分 47都道府県47地点 連続捕集、1か月ごとに分析

水準調査における大気降下物の調査結果一覧(1)

案

単位: MBq/km²

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	
北海道札幌市	ND	ND	49 - 300	ND	ND	68 - 440	ND	ND - 0.15	34 - 270	H2/10/1
青森県青森市	ND	ND	81 - 550	ND	ND	35 - 590	ND	ND - 0.18	96 - 550	H3/1/5
岩手県盛岡市	ND	ND - 0.21	79 - 300	ND - 0.23	ND - 1.0	43 - 260	ND	ND - 0.10	0.017 - 330	S63/4/1
宮城県仙台市	ND - 0.20	0.15 - 2.0	-	ND - 0.48	0.16 - 3.0	-	-	ND	24 - 310	H1/4/3
秋田県秋田市	ND	ND - 0.056	120 - 490	ND - 0.13	ND - 0.41	72 - 600	ND	ND - 0.31	54 - 530	H1/12/31
山形県山形市	ND - 0.059	0.072 - 0.67	56 - 250	ND - 1.5	0.13 - 5.5	47 - 240	ND	ND	ND - 260	H1/4/1
福島県大熊町	3.5 - 91	35 - 1000	-	8.8 - 770	64 - 4700	-	-	ND - 0.090	12 - 730	S63/4/30
福島県福島市	0.34 - 6.9	4.0 - 82	-	0.26 - 39	1.7 - 180	-	-	-	-	H26/4/3
茨城県ひたちなか市	ND - 0.78	0.35 - 6.7	27 - 450	ND - 2.0	0.50 - 6.9	46 - 370	ND	ND - 0.62	10 - 350	S63/4/1
栃木県宇都宮市	ND - 0.26	0.082 - 3.2	-	ND - 0.69	0.088 - 3.1	-	ND	ND - 0.083	-	S63/1/4
群馬県前橋市	ND - 0.26	0.13 - 3.3	7.3 - 150	ND - 1.9	0.19 - 7.7	4.6 - 270	-	ND - 0.12	9.8 - 260	H2/10/23
埼玉県吉見町	ND	0.066 - 0.47	11 - 250	ND - 0.20	0.072 - 1.1	10 - 320	-	ND - 0.14	23 - 410	H4/1/4

原子力規制庁の環境放射線データベース内の調査結果を基に作成した。

測定値は、計数値が計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

詳細な調査結果は参考資料に掲載した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

水準調査における大気降下物の調査結果一覧(2)

案

単位: MBq/km²

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	
千葉県市原市	ND - 0.095	0.099 - 0.93	35 - 360	ND - 0.34	0.19 - 2.4	21 - 350	ND	ND - 0.075	14 - 360	H2/10/1
東京都新宿区	ND - 0.21	0.17 - 2.3	29 - 360	ND - 0.87	0.26 - 5.6	19 - 420	ND	ND	9.6 - 430	H1/10/2
神奈川県茅ヶ崎市	ND - 0.044	0.085 - 0.38	24 - 250	ND - 0.29	0.10 - 1.9	18 - 270	ND	ND	17 - 380	S52/10/1
新潟県新潟市	ND	ND - 0.070	47 - 460	ND	ND - 0.12	36 - 630	ND	ND - 0.082	ND - 540	S63/4/1
富山県射水市	ND	ND - 0.064	-	ND	ND - 0.044	-	-	ND - 0.28	-	S63/3/1
石川県金沢市	ND	ND - 0.076	94 - 1500	ND	ND	84 - 1500	ND	ND - 0.54	77 - 1600	H2/3/29
福井県福井市	ND	ND - 0.14	43 - 690	ND	ND	49 - 1200	-	ND - 0.35	52 - 1300	S63/3/30
山梨県甲府市	ND	ND	26 - 230	ND	ND - 0.18	11 - 270	ND	ND	15 - 420	S63/4/1
長野県長野市	ND	ND - 0.069	24 - 130	ND - 0.082	ND - 0.37	17 - 190	-	ND	13 - 170	S62/11/2
岐阜県各務原市	ND	ND	-	ND	ND	-	ND	ND	-	H2/11/1
静岡県静岡市 牧之原市※	ND	ND - 0.042	19 - 490	ND	ND - 0.11	32 - 390	ND	ND	27 - 510	S63/4/1
愛知県名古屋市	ND	ND	7.0 - 190	ND	ND	19 - 170	-	ND	25 - 250	S62/12/1

※静岡県の採取地点は、平成30年5月より静岡市から牧之原市に変更された。

水準調査における大気降下物の調査結果一覧(3)

案

単位: MBq/km²

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	
三重県四日市市	ND	ND	-	ND	ND - 0.071	-	-	ND - 0.071	-	S63/10/1
滋賀県大津市	ND	ND	37 - 330	ND	ND	45 - 250	-	ND	26 - 300	H1/11/1
京都府京都市	ND	ND	22 - 160	ND	ND	50 - 220	ND	ND - 0.32	17 - 300	S63/4/1
大阪府大阪市	ND	ND	9.3 - 170	ND	ND	25 - 170	-	ND	28 - 240	S63/9/30
兵庫県加古川市 ※	ND	ND	16 - 160	ND	ND	7.6 - 180	-	ND	13 - 180	S62/9/30
奈良県桜井市	ND	ND	-	ND	ND	-	-	ND	16 - 190	H1/12/28
和歌山県和歌山市	ND	ND	-	ND	ND	-	ND	ND	-	S63/4/1
鳥取県湯梨浜町	ND	ND	-	ND	ND	-	ND	ND - 0.15	21 - 750	H2/10/1
島根県松江市	ND	ND - 0.065	15 - 510	ND	ND	22 - 710	ND	ND - 0.22	31 - 680	S63/3/31
岡山県岡山市	ND	ND	23 - 170	ND	ND	17 - 210	ND	ND	ND - 170	H4/2/1
広島県広島市	ND	ND	24 - 160	ND	ND	36 - 230	-	ND - 0.11	6.3 - 280	H1/2/1
山口県山口市	ND	ND	22 - 250	ND	ND	58 - 310	-	ND - 6.5	30 - 450	S63/10/1

※兵庫県の採取地点は、平成30年4月より神戸市から加古川市に変更された。

水準調査における大気降下物の調査結果一覧(4)

案

単位: MBq/km²

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	平成30年4月 - 平成31年3月			平成27年4月 - 平成30年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	
徳島県徳島市	ND	ND	-	ND	ND	-	-	ND	-	H2/4/1
香川県高松市	ND	ND	27 - 180	ND	ND	12 - 330	ND	ND	18 - 250	S63/7/1
愛媛県松山市	ND	ND	-	ND	ND	-	-	ND - 0.13	-	S63/4/1
高知県高知市	ND	ND	28 - 480	ND	ND	23 - 480	-	ND	40 - 540	H1/11/1
福岡県太宰府市	ND	ND	65 - 240	ND	ND - 0.045	29 - 370	ND	ND - 0.075	34 - 450	H1/10/2
佐賀県佐賀市	ND	ND	62 - 240	ND	ND	47 - 260	ND	ND - 0.20	18 - 420	S63/5/2
長崎県大村市	ND	ND	55 - 270	ND	ND	11 - 410	ND	ND - 0.085	15 - 430	H2/12/1
熊本県宇土市	ND	ND	48 - 260	ND	ND	49 - 330	-	ND - 0.11	20 - 240	H1/11/1
大分県大分市	ND	ND	52 - 260	ND	ND	21 - 960	-	ND	34 - 2700	S63/3/1
宮崎県宮崎市	ND	ND	ND - 360	ND	ND - 0.22	33 - 460	ND	ND - 0.11	16 - 720	S63/8/1
鹿児島県鹿児島市 薩摩川内市 ※	ND	ND	36 - 280	ND	ND	32 - 400	ND	ND - 0.040	21 - 300	S63/5/2
沖縄県うるま市	ND	ND	38 - 120	ND	ND	10 - 250	-	ND	0.10 - 360	S63/4/1

※鹿児島県の採取地点は、平成30年10月より鹿児島市から薩摩川内市に変更された。

大気降下物の調査結果の評価

γ線スペクトロメトリーによって大気降下物を分析した結果、一部の調査地点では、人工放射性核種である ^{134}Cs 及び ^{137}Cs が検出されたものの、ほとんどの地点において検出下限値を下回るかあるいはわずかの検出であった。

また、今回の調査結果は、概ね過去の調査結果(①過去3か年度及び②東日本大震災前のデータ)と比べて特段の変化は見られなかったことから、新たな事象による人工放射性核種の影響は認められなかったものと考えられる。